

和歌山だより

平成27年11月号
(2015)



広村堤防（広川町）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P13
3. ふるさと歳時記…………… P14～P15

「紀の国わかやま大会」への御声援ありがとうございました。
11月5日は、「津波防災の日」です。
濱口梧陵さんが、稲むらに火を放って津波から逃げ遅れた人たちを避難させた功績にちなんで制定されました。
濱口梧陵さんは、広村堤防も築造しました。



国体の感動を障害者スポーツ大会へ

9月26日に天皇皇后両陛下をお迎えして開かれた第70回国民体育大会「紀の国わかやま国体」は、10月6日、多くの感動とともに幕を降ろしました。思えば、知事就任以来、会場地の選定、施設の充実、必要なインフラの整備、県選手団の強化とさまざまな準備をしてまいりましたが、国体の閉会式に臨み、炬火の炎が静かに消えていくのを見るに万感胸に迫るものがありました。県民の皆様が一生懸命ご尽力いただいた結果、「紀の国わかやま国体」は心温まる大会であったと全国からの参加者の皆さんに喜んでいただくことができました。

また、選手の頑張りとお客の皆様の応援のおかげで和歌山県は男女総合優勝を果たし、天皇杯を獲得することができました。ずっと40番台に低迷していた和歌山県ですが、総力を結集すれば、このような結果をもたらすことができると、県民に勇気を与えてくれました。本当に感激をしています。

さて、次は全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」であります。10月24日から26日、全国から障害を克服して、精一杯躍動しようという仲間がこの和歌山に集まってくれます。24日の開会式には、皇太子殿下も御臨席になられ、多くの県民の皆様とともに選手の皆さんを励ましてくださることになっています。

「紀の国わかやま大会」のために、国体以上に多くのボランティアの方々が運営に御協力くださっています。この和歌山の地で、障害を乗り越えて選手達が精一杯躍動するのを讃えたいと思います。国体に続いて「紀の国わかやま大会」が素晴らしいものであったと後々まで語り継がれるよう、県民の皆様が全国から集まった仲間に笑顔でおもてなしをお願いしたいと思います。



10/8 定例記者会見にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」が開催されました！

・第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」が、10月24日から26日にかけて開催され、県内5市2町で競技が実施されました。

・先に開催された国体も天候に恵まれましたが、本大会もさわやかな青空のもと開催することができました。

・ここ10年間で開催された国体・大会では、本県のように天候に恵まれたことはありませんでした。これも、県民の皆さんをはじめ、応援してくださったすべての皆さんの思いが通じたものと感謝いたします。

・順風満帆と思われた大会でしたが、実は、25日の未明に突風が本県を襲い、日高川町のアーチェリー会場では、準備していた標的やテントが吹き飛ばされ、競技ができないことも危惧されました。しかし、大会関係者はもとより、多くのボランティアの皆さんの懸命な復旧作業により、無事競技を行うことができました。

・国体に引き続き、ボランティアの皆さんをはじめ企業や団体の皆さんの絶大なる御支援、そして温かい御声援、誠にありがとうございました。

○開会式



・10月24日、皇太子殿下御臨席のもと開会式が開催され、2,000人を超える選手団が堂々と行進し、最後に県選手団が入場すると、会場はひととき大きな拍手に包まれました。

・その後、紀の国わかやま国体から受け継がれた炬火が再び炬火台に点火され、山本昂城選手、谷口ゆかり両選手が、力強く選手宣誓を行いました。

・歓迎演技では、4章から成

る「紀の国の“みち”」をテーマに、約1,500人が出演し、和歌山の豊かな自然、誇るべき先人をPRしました。和歌山県出身で、俳優の小西博之さん、歌手の坂本冬美さんらも駆けつけていただき、約15,000人が参加した開会式を大いに盛り上げていただきました。



・7月の「全国高等学校総合体育大会」御臨場以来、短期間に再びの御来県となった皇太子殿下は、県選手団の激励会にも御出席いただき、選手をはじめ激励演技出演者に優しく話しかけられ、それぞれ大きな励みとなりました。

○競技

・ロンドンパラリンピック銀メダリストの中村智太郎選手が水泳の2種目で、生馬知季選手が陸上競技で、それぞれ大会新記録を出して金メダル獲得と素晴らしい活躍を見せるなど、県選手団の活躍は目覚ましいものがありました。

・県選手団は13の正式競技において、金メダル56個、銀メダル33個、銅メダル38個の127個のメダル獲得と、今年の長崎大会の40個の3倍以上の大躍進となりました。

○閉会式

・熱戦を締めくくる総合閉会式が10月26日に、高円宮妃殿下御臨席のもと、約14,000人が参加する中、開催されました。

・閉会式の前には、紀三井寺公園に装飾していたみかんの木30本を一箇所に集め、全国の選手団の方々にみかん狩り体験をサプライズで用意。みかん約1,500個が瞬く間にもぎ取られ、その場で味わっていただくなど、大いに盛り上がりました。



・閉会式では、大会会長の仁坂知事から、次回開催の岩手県 達増拓也知事に大会旗が引き

継がれ、選手の活躍を見守ってきた炬火が納火された際には、大きな拍手がわき起こりました。

・最後には、堀内孝雄さんによるコンサートが行われ、会場全体が一体となった盛り上がり最高潮に達し、国体から続く熱戦の日々に、幕が下ろされました。

・「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」を通して、来県された選手・監督や観覧者の方からは、「ボランティアの皆さんが優しく声をかけてくれた。」、「どこの会場もきれいに花が飾られ、気持ちよく観戦できた。」などのお言葉をいただき、まさに県民総参加で和歌山の魅力あふれる両大会となりました。

○紀の国わかやま大会 金メダル獲得者(個人競技)

(順不同、敬称略)

競技	氏名	種目	競技	氏名	種目	
陸上競技	生馬知季	100m	水泳	中村智太郎	50m平泳ぎ	
		200m			50m自由形	
	桑原安子	ソフトボール投		岩田圭司	25m自由形	
	岡室陽造	立幅跳		有家紀子	25m自由形	
		ジャベリックスロー			25m平泳ぎ	
	立花 崇	ジャベリックスロー		畑 晃二	25m自由形	
		砲丸投			25m平泳ぎ	
	泉中條子	ジャベリックスロー		上田榮子	50m自由形	
	築地克彦	ジャベリックスロー			25m自由形	
		砲丸投		アーチェリー	尾崎 直彦	リカーブ 50m・30m ラウンド
	西村文邦	100m	卓球	東野敏宏	一般卓球	
	嶋本展仁	200m		田村博史	一般卓球	
	廣畑 賢	スラローム		宮本 実	一般卓球	
		50m		原代采奈	一般卓球	
	澤田留司	立幅跳		中谷倫也	サントゥテーブルテニス	
	鈴木敏美	ソフトボール投		亀山直美	サントゥテーブルテニス	
	黒川真菜	100m		塩崎 圭	一般卓球	
		1500m		谷 霞	一般卓球	
	野尻 誠	800m		フライング ディスク	古久保喜朋	ディスク・メンス・ スタンディング
	嶋田拓生	ジャベリックスロー			吉本比出代	アキュラシー レディース・ スタンディング
		ソフトボール投	廣田祐貴			アキュラシーディスク・ ファイブ
	西岡俊明	ジャベリックスロー	松原久起		アキュラシーディスク・ ファイブ	
	落合隆也	走高跳	原 修		アキュラシーディスク・ ファイブ	
	若林峯子	走幅跳	高関達矢		アキュラシーディスク・ ファイブ	
	宮崎郁矢	ジャベリックスロー	岡本滉生		ディスク・メンス・ スタンディング	
	堀井伴哉	100m	ボウリング		宇戸 巧	ボウリング
	山本昂城	800m			池戸益寛	ボウリング
		1500m				
宮本高志	立幅跳					

●知事がトルコ・スペインを訪問

・10月11日から10月18日までの日程で、仁坂知事はトルコとスペインを訪問しました。

・トルコでは、日本・トルコ合作映画「海難1890」の話を中心に、両国でたくさんの人々に鑑賞していただき本県とトルコとの友好関係を深めるとともに、2020年に開催される東京オリンピックに向けて、トルコ・ナショナルチームの事前合宿の誘致を働きかけました。さらに、12月の国連総会の際に決議される「世界津波の日」に賛成していただくことを依頼しました。

・スペインでは、熊野古道と姉妹道提携を行っているカミノ・デ・サンティアゴ(サンティアゴへの巡礼路)があるガリシア州を訪問し、フェイホー州首相とさらなる交流の促進を目指し意見交換を行い、文化交流の推進を柱とする覚書に調印しました。

・また、同州のサンティアゴ・デ・コンポステーラ市で開催された第1回巡礼道フォーラムFAIRWAYに、メインゲストとして招待され、「神々が宿る巡礼の聖地：和歌山」と題して、熊野の精神文化についての基調講演を行いました。併設されたブースで県と田辺市が熊野を大いにPRしたところ、大勢の参加者が和歌山に関心を示し、熱心に訪問の際のモデルコースを聞くなど大盛況でした。

トルコ

○海軍総司令官との会談

・10月12日、知事はアンカラにおいて、ビュレント・ボスタノール海軍総司令官と会談し、エルトゥールル号遭難事故を契機とする日本とトルコの友好関係について意見交換しました。

・6月に串本町で開催されたエルトゥールル号125周年式典に参加した同司令官は、「エルトゥールル号の乗務員を救助してくれた串本町大島の住民に対して、トルコ海軍としていつまでも感謝している。」と述べられました。



○文化観光大臣との会談

・ヤルチュン・トプチュ文化観光大臣と会談し、日本・トルコ合作映画「海難1890」へのトルコ政府による支援に対してお礼を述べるとともに、映画公開を契機とした両国の友好関係の発展について意見交換しました。

・同大臣は、「トルコにとって日本は特別な存在である。何度か串本を訪問したが、和歌山は素晴らしいところ。映画を契機にトルコ国民の間でも訪日旅行の際の訪問先として人気のスポットになるだろう。」と述べられました。



○エルトゥールル号セミナー

・トルコにおける日本文化・情報の発信拠点である土日基金文化センターにおいて、エルトゥールル号遭難事故に端を発する両国の交流と、映画「海難1890」を紹介するセミナーを開催しました。

・セミナーの参加者からは、「エルトゥールル号遭難事故のことはよく知っているが、和歌山県の人たちがトルコのことを大事に思ってくれていることがわかって大変感激した。」といった感想が聞かれました。



○青年スポーツ大臣との会談

・10月13日、知事はアキフ・チャータイ・クルチ青年スポーツ大臣と会談し、エルトゥールル号遭難事故の舞台である和歌山県について紹介しました。また、紀の国わかやま国体に触れ、県内施設の質の高さやアクセスの良さをPRし、エルトゥールル号の悲劇から130周年となる2020年の東京オリンピックに際し、トルコのナショナルチームが和歌山で事前合宿を行ってもらえるよう要請しました。



・同大臣は、「エルトゥールル号遭難事故は日本とトルコとの友好関係の原点であり、和歌山の人々の真心に感謝している。東京五輪は数年後のことであるが、現時点から考えることは重要であり、事前キャンプについて前向きに考えていきたい。」と述べられました。

○外務副大臣との会談

・アリ・ナージ・コル外務副大臣と会談し、映画「海難1890」の公開を契機とした日本とトルコとの友好関係の発展について意見交換するとともに、日本トルコ友好議員連盟の二階俊博会長らが進める国連「世界津波の日」制定に向けての協力を要請しました。



・同副大臣は、「トルコでエルトゥールル号のことを知らない人はいない。映画公開により一層事故のことが知られるであろう。また、日本で起こった津波被害のことはよく知っている。トルコとして日本の取組を支援したい。」と述べられました。

○トルコ・オリンピック委員会訪問

・イスタンブールにおいて、トルコ・オリンピック委員会のニハット・ウスタ副会長に、県内競技施設等の質の高さや医療環境の良さをPRし、東京オリンピックの際は、レスリングなどのナショナルチームが和歌山で事前合宿を行ってもらえるよう、協力を要請しました。



・同副会長は、「日本とトルコとの距離は遠いが心は近い。トルコ人は日本を尊敬し、特別な愛情を持っている。和歌山県のことを各競技連盟に紹介し、和歌山県の誘致活動に協力したい。」と述べられました。

スペイン

○ガリシア州議会議長表敬訪問

・10月15日、知事は前芝県議会議長とともに、ガリシア州議会のピラール・ロホ・ノゲラ議長を表敬訪問し、1998年に熊野古道とカミノ・デ・サンティアゴとの姉妹道提携以来、本県と同州との緊密な交流を紹介しながら、さらなる交流の拡大について意見交換しました。



・同議長は、「世界遺産の中で2つしかない『巡礼道』の世界遺産に基づく両県州間の友好関係を大切にし、交流の裾野がさらに拡大していくことを望んでいる。政府同士だけでなく議会同士も交流していきたい。」と述べられました。

○サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学長との懇談

・その後、知事は和歌山大学の山田副学長とともに、ファン・ビアーニョ・レイ学長を訪問し、今年6月に同大学と和歌山大学との提携が実現したことから、今後の知的交流の展開への期待を表明しました。

・同学長は、「和歌山県とガリシア州の友好関係の中で、『巡礼道』をキーワードにした観光学の共同研究、教員・学生の交換留学など活発に交流を進めていきたい。」と述べられました。

・和歌山大学には、来年4月に国立大学として初の観光学センターが設立される予定であることから、観光学センター同士の今後の交流に係る覚書に調印しました。県では、毎年実施している青少年交流派遣をはじめとする学生の交流が活発することを期待します。



○ガリシア州首相との会談

・知事は、フェイホー州首相を訪問し、両県州間の交流をさらに深化、拡大させるべく、知的交流、経済交流、文化交流の推進を柱とする覚書に調印しました。

・今後、11月に田辺市で開催予定の第2回世界遺産サミットにガリシア州観光局長を招へいし講演を行っていただくほか、来年1月にスペインのマドリードで開催予定の旅行博で共同プロモーションを実施することで合意しました。



・同州首相は、「和歌山との関係は1998年以來の古い大切な友人であり、世界に2つしかない巡礼道の世界遺産を持つという類を見ない大変高尚な関係にある。引き続き良好な関係を継続・深化させたい。」と述べられました。

・県では、様々な機会捉え、両県州間の親密な関係を各地でPRしていきます。

○第1回巡礼道フォーラムFAIRWAY

・欧米において初めて開催される巡礼や聖地観光、歴史遺産観光をテーマにした総合カンファレンス・フェアである第1回巡礼道フォーラムFAIRWAYに、和歌山県がメインゲストとして招待され、知事は、熊野古道の精神文化について基調講演を行い、続いて、国際熊野学会の山本常任委員、和歌山大学の加藤教授も講演を行いました。



・会場には大勢の聴衆が詰めかけ、熊野古道とカミノ・デ・サンティアゴとの共通点や相違点、観光・観光業の原点とも言える熊野参詣の説明を熱心に聴講していました。また、県と田辺市が設置したブースでは、世界各国から集まった旅行会社や雑誌社に対して、海外から多くの旅行客に和歌山を訪れていただけるようPRしました。和歌山の精神文化に関心を持っていただいたことで、今後、熊野を訪問してくれることを期待しています。

○巡礼道フォーラムレセプション・故ルイス・オカニャ追悼熊野写真展

・知事は、巡礼道フォーラムのレセプションに出席し、会場に展示している故ルイス・オカニャ追悼写真展を視察しました。

・熊野や高野山を愛したガリシア州出身の写真家である同氏の素晴らしい作品を、両県州の交流を世界にPRすべく使用したいと申し出たところ、快諾いただきました。



・この写真展は、東京で開催されたことがありましたが、スペインでの開催は初めてで、とりわけ同氏の出身のガリシア州で開催できたことは、大変意義深いものとなりました。

●「元気な和歌山」の実現に向けて 平成28年度新政策と予算編成の方針を決定

・県では、人口減少の克服と持続可能な和歌山の実現を目標に、目指すべき将来の人口の姿を示した「和歌山県長期人口ビジョン」と、それを実現するための今後5年間の具体的な施策を盛り込んだ「和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を6月に策定しています。

・平成28年度は、この戦略の5つの基本目標である①安定した雇用を創出する②和歌山県への新しい「人の流れ」を創造する③少子化をくい止める④安全・安心な暮らしを実現する⑤時代に合った地域をつくる、の達成をめざし、これまでの取組にとらわれない強力かつ大胆な施策を展開します。

・今後は、県議会や市町村長等からいただいた意見も参考に、さらに内容を具体化し、予算化が必要なものについては知事査定を経て来年度の予算案として2月議会に上程していきます。

<平成28年度 新政策の方針(抜粋)>

1. 安定した雇用を創出する

和歌山に「ひと」を呼び込み定着を促すためには、「ひと」が生活するための基礎となる「しごと」を地域で確保することが求められる。

そのため、製造業や観光業、農林水産業など、本県が強みとする産業の競争力を高め、国内外から稼げる産業に成長させるとともに、地域の魅力・資源を最大限に活用した産業を育成することで、安定した雇用を創出する。

◇県内企業の成長力強化

【中小企業の競争力強化】

- ・研究開発を担う優秀な人材確保のため、インターンシップへの参加促進や、大学との就職支援協定締結などにより、理工系学生の県内就職を促す

【新産業の創出】

- ・志高い創業者を発掘するため、セミナーを開催するとともに、企業の新事業展開を促進するため、第一線で活躍する人材と企業のマッチングなどを実施
- ・企業誘致を促進するため、あやの台北部用地の開発など工場用地を確保
- ・ICT企業の誘致に向けて県内でのICT企業の研修会やソフトウェア開発イベントを実施
- ・木質バイオマス発電所の実現に向け、燃料原木の調達にかかる初期経費等を支援

◇たくましい農林水産業の創出

【競争力強化】

- ・優良農地を確保するため、農振法における農用地区域農地からの除外や農地法における転用許可を厳格化することにより農地転用を抑制
- ・海外市場開拓を促進するため、生産から流通、現地での販促活動に至るまで、産地主導の意欲的な取組を徹底サポート
- ・和歌山県農業大学校における教育課程に農業経営を追加するとともに、林業分野においては林業技術・経営を学ぶ体制を整備

【新分野への展開】

- ・農林水産業と観光を融合したグリーンツーリズムやブルーツーリズムを推進するため、農林漁家民泊施設や市民農園の整備など、地域での受入体制整備を支援

◇観光の振興

【観光資源の情報発信】

- ・世界遺産登録10周年や高野山開創1200年で高まった本県の認知度をさらに向上させるため、水にまつわる観光資源と世界遺産ブランドを絡ませた『水の国 わかやま』キャンペーンを実施
- ・紀の川沿いの「川」のルートに続き、高野・熊野など紀伊山地を巡る「山」のルートや海岸沿い

を走る「海」のルートを整備するとともに、ファミリー層から上級者までサイクリングレベルに応じて地域の魅力を満喫できる周遊ルートを発信

【観光素材のブラッシュアップ】

- ・「世界遺産」の追加登録に向け、追加登録予定地域における環境保全トレッキングなどの誘客対策を実施するとともに、新たに「日本遺産」の認定をめざす

2. 和歌山県への「人の流れ」を創造する

労働力不足や消費の縮小による地域活力の低下をもたらす人口減少を抑制するためには、「ひと」の流入と定着を促進させることが重要である。

そのため、和歌山の暮らしやすさをより向上させ、移住を希望する人の不安を取り除くための施策を充実させるとともに、県内で働くことを希望する人をすべて受け入れる雇用の場の確保に取り組むことで、本県への新たな「人の流れ」を創造する。

◇和歌山で暮らす

- ・過疎化や担い手不足を解消し地域を元気にする「移住・定住大作戦」を継続し、「くらし」、「しごと」、「住まい」の3つの側面から移住者を支援
- ・空き家や中古住宅の利活用を推進するため、借上制度を活用できるよう空き家を耐震化の支援対象とするとともに、中古住宅の流通促進のための協議会を設立し住宅検査体制を整備

◇和歌山で働く

- ・高校生の地元就職を促進するため、進路指導に長じた人材を学校に派遣し、将来の進路設計や就職にあたっての必要な知識・心構えを学ぶ機会を提供

◇和歌山で学ぶ

- ・和歌山県立医科大学薬学部新設の準備
- ・看護大学の誘致実現に向けて、関係機関に働きかけ

3. 少子化をくい止める

和歌山県で生まれ育つ子どもを増やし、合計特殊出生率を人口置換水準(2.07)に近づけるには、結婚や子育ての不安を払拭し、今も進行する未婚化、晩婚化、晩産化の流れを変えることが重要である。

そのため、結婚から妊娠、出産、子育てと切れ目のない少子化対策をさらに充実・強化し、地域の将来を支える存在である子どもを安心して産み育てることができる社会を実現することで、少子化をくい止める。

◇結婚・妊娠・出産・子育ての支援

- ・第3子以降の幼児教育・保育の無料化など、子育て世帯の経済的負担を一層軽減

◇社会で子どもを育む環境づくり

- ・親元で生活することのできない子どもたちが家庭的な環境で健全に育成されるよう、里親支援機関を紀南地域に新設するとともに、里親を増やすための制度を積極的に啓発
- ・地域の青少年リーダーが次世代リーダーを養成するリレー式の青少年の健全育成に加え、子どもの「やりたいこと」を応援する団体の活動を支援するとともに、優秀な成果を収めた団体を表彰

4. 安全・安心な暮らしを実現する

人の定着や新たな流入を促進するためには、あらゆる世代にとって安全・安心に暮らせる環境づくりが必要である。

そのため、自然災害による犠牲者ゼロをめざす取組を最優先で推進するとともに、「地域医療構想」に基づいた病床再編や、切れ目のない医療・介護サービスを提供する「地域包括ケアシステム」の構築、快適な生活環境の維持、良好な治安や安全な交通環境など、暮らしやすさの一層の向上をめざす。

◇大規模災害から命を守る対策の推進

本年9月に策定した「和歌山県国土強靱化計画」に基づき対策を推進

【地震・津波対策】 【風水害・土砂災害対策】 【災害対応力の強化】

◇質の高い医療と福祉の充実

【医療】

- ・急性期から回復期への病床機能の転換等を促進するため、施設の改修及び設備整備等を支援
- ・在宅医療参入を促進するため、必要な医療機器の購入を支援するとともに、かかりつけ医の後方支援等を行う病院を整備

【健康】

- ・がん検診の質を向上させるため、市町村のがん検診の実施状況を評価・公表
- ・在宅で療養する難病等の患者・家族への体力的、心理的負担を軽減するため、在宅難病患者の一時入院制度を構築

【福祉】

- ・障害者が身近な地域で安心して暮らせるよう、障害者用駐車区画の利用証の交付に加え、障害者の見守りや手助けを実践する「あいサポート運動」を推進

◇良好な生活空間の実現

- ・単独処理浄化槽から合併処理浄化槽に転換を促進させるため、個人経営の飲食店や民宿の転換費用を助成
- ・猫の殺処分数をゼロに近づけるため、条例で飼い主の遵守事項を定めるとともに、地域猫対策を行う自治会等に対して不妊去勢手術費用を支援
- ・生物多様性を保全し次世代に引き継ぐため、シンポジウム等による生物多様性の普及啓発の実施や里地・里山環境の保全活動の支援を行うとともに、紀の国森づくり基金を活用し「新紀州御留林」を県で整備

◇良好な治安の確立と交通安全の確保

- ・捜査のさらなる高度化をめざし、捜査支援カメラなどの情報収集・分析機器を導入
- ・日本一安全で快適な交通環境を実現するため高齢ドライバーや自転車利用者への指導を実施

5. 時代に合った地域をつくる

個人消費の縮小に伴う地域経済の悪化や地域コミュニティの崩壊など、さまざまな問題を引き起こす人口減少社会にあっても地域の活力を維持していくためには、それぞれの地域課題に対応した取組を進めていかなければならない。

そのため、地域の特性を見極め、産業をはじめ様々な活動を支える公共インフラ整備や都市機能の再編・集約によるコンパクトなまちづくり、伝統文化の継承、優れた人材を育てる教育の充実、多様な県民活動を活性化させ、地域コミュニティの再構築を図るなど、社会の変化に対応した取組を推進していくことで、人口減少時代に適応した地域づくりを実現する。

◇公共インフラの整備

- ・県内の幹線道路ネットワークを強化

◇多様な県民活動との連携

- ・地域コミュニティの活性化を図るため、紀の国わかやま国体・大会を契機に盛り上がったあいさつ運動や花づくり運動など、様々な県民運動を推進

◇まちの再生

- ・「コンパクトなまちづくり」の実現に向けて、都市外縁部や郊外部において農振法における農用地区域農地からの除外や農地法における転用許可を厳格化することにより農地転用を抑制するとともに、区域区分や用途地域の指定など都市計画の見直し案を県から市町に提案し、それに沿った市町の市街地再開発を支援

◇地域の再興

- ・南紀熊野ジオパークを広く知ってもらうとともに、世界ジオパーク認定に向けて、「(仮称)南紀熊野ジオパークセンター」を整備(H29年度完成予定)

◇文化・芸術・スポーツの振興

【文化・芸術】

- ・平成33年度の国民文化祭の開催をめざし、各文化団体が協力して取り組む体制を構築するとともに、意識高揚のためのイベントを実施

【スポーツ】

- ・紀の国わかやま国体等で活躍した競技者を優れた指導者として育成し、次世代のトップアスリートを輩出していく好循環を創出

◇学校教育の充実

【児童の健全育成】

- ・不登校問題について県をあげて重点的に対策を推進
- ・和歌山県独自の教科書を活用した道徳教育を徹底

【学力の強化】

- ・児童・生徒の学力向上のため、実践力のある教員が授業ノウハウを中堅・若手教員に伝授

●日本・トルコ合作映画「海難1890」が遂に完成！

・1890年に串本町沖で遭難したトルコ軍艦エルトゥールル号を題材に、日本とトルコの友情を描いた映画「海難1890」が完成し、製作・配給会社である東映株式会社が、ジストシネマ和歌山(和歌山市)において、完成披露試写会を行いました。

・映画化は、田嶋串本町長が同級生である田中光敏監督に手紙を書いたことから始まり、県も大いに協力する中、5年前にエルトゥールル号遭難事故120周年式典が串本町で開催されたことを契機として、本格化しました。

・実現に至るまでには多くの障害がありました。2013年10月、トルコを訪問した安倍晋三総理とエルドアン首相(当時)の合意と東映の参加により大きく前進しました。

・両国政府の拠出はもちろん、日本側では日本を代表する企業が資金協力をし、NPO法人「エルトゥールル号が世界を救う」をはじめ共鳴する多くの県民や企業も寄付を行いました。



・また、地元串本町では、ボランティアの方々撮影中の出演者やスタッフを温かい炊き出しでもてなすとともに、多くの県民がエキストラとしても参加して映画製作を助けてくれました。

・12月5日から、全国で公開されます。皆さんも、是非日本とトルコの絆の深さが映し出された感動の友好物語を御覧ください。



●Instagram県総合アカウントを開設・イメージガールを起用！

・6月号でもお知らせしましたが、5月から運用を開始したInstagramを利用した情報発信において、4つの県公式アカウントを合わせると約5,000件のフォロワー(10月27日現在)を獲得しています。

・この取組をさらに拡大・発展させ情報発信力を強化するため、10月27日から総合アカウントを開設するとともに、Instagram上で人気の和歌山市出身のモデル 本谷紗己さんを「Insta_Wakayama イメージガール」に起用しました。

・同日、仁坂知事からイメージガールの委嘱状を交付された本谷さんは、「和歌山が大好きで自分でも情報を発信してきたので、県公認となって夢がかなった。かわいらしいカフェも最近増えているので、和歌山のおしゃれな場所をもっと知ってもらいたい。」と抱負を述べられました。

・概要は以下のとおりです。皆さんも是非御覧ください。

○Instagram県総合アカウント

アカウント名：Insta_Wakayama 和歌山県オフィシャル (@insta_wakayama)

- 機能：県公式アカウント全体に関する告知
- ・Instagram上で実施するキャンペーンの告知
 - ・インスタミート(Instagramでの写真撮影会)の告知
 - ・一般投稿者の優秀写真の紹介 など

イメージガール：本谷紗己(ほんたにさき)さん(モデル事務所ハイブリッドバンク所属) 和歌山市出身/在住 1990年3月8日生(25歳) 東京ガールズコレクション MissTGC2014 準グランプリ 主婦の友社のファッション誌「S Cawaii!」専属モデル



●外国人観光客向けバスフリー切符「WAKAYAMA KUMANO PASS」の販売を開始！

・外国人観光客が紀南地域の熊野古道や熊野三山、白浜温泉などをゆっくり3日間滞在して、便利に周遊することができるバスフリー切符「WAKAYAMA KUMANO PASS」(税込8,500円)を11月1日から来年9月28日まで発売しています。

・このパスを利用すれば、何度も切符を買う必要がなく、路線ごとの支払いの手間もかかりません。

・リーフレットは、より多くの方にわかりやすく利用してもらえるように6言語(英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語、フランス語、スペイン語)に対応しています。

・県内のJR西日本の駅の「みどりの窓口」で発券し、購入に当たっては、JRの発行する外国人観光客向け特別企画乗車券を提示し、当該企画乗車券の有効期間内に利用開始日を設定する必要があります。

・県では、このパスを活用して国外に広く紀南地域の魅力を周知するため、海外セールスの活用、ホームページやリーフレットを活用した国外PRはもとより、先着800名にバス周遊券を無料提供して誘客の促進を図っていきます。

・本事業は、明光バス株式会社、熊野交通株式会社、龍神自動車株式会社、奈良交通株式会社、JR西日本和歌山支社の事業者にご協力いただいています。



●南海・真田赤備え列車、この秋参上！！

・南海電気鉄道株式会社では、平成28年のNHK大河ドラマ「真田丸」の放送に向け、主人公の真田信繁(幸村)が大坂冬の陣、夏の陣までの長い間雌伏していた九度山の認知度向上を図るため、11月1日から約1年間、高野線の2000系車両(4両1編成)に真田赤備え装飾を行い運行しています。

・この列車の外装デザインは、赤備え甲冑をモチーフに真田家の家紋「六文銭(六連銭)」や「結び雁金」をあしらひ、甲冑の力強さや美しさが表現されています。内装デザインは、一般座席は赤をベースに「六文銭」を取り入れたデザインに、優先座席は若草色をベースにハートの「六文銭」を取り入れたデザインになっています。

・また、九度山町の玄関口である高野線九度山駅の駅舎も真田赤備え、六文銭などのデザイン装飾を行い、落ち着いた風合いに塗装するとともに、「六文銭」をあしらった暖簾や幕を掲出しています。

・皆さんも是非、この機会に「南海・真田赤備え列車」を御利用のうへ、真田幸村の隠れ里として知られる九度山町にお越しください。

・なお、真田昌幸、幸村、大助の真田三代の偉業と、幸村の生涯で14年間という一番長い時間を過ごした九度山での生活を、パネル展示とドラマ仕立ての映像により紹介する「九度山・真田ミュージアム」が、3月13日にオープンします。同館内においては、出演者のパネルやドラマで着用した衣装、小道具等を展示し、大河ドラマの魅力を紹介する大河ドラマ展を、県と九度山町等が協力して行います。そのほか、紀北の市町にたくさん残っている戦国時代に関連する史跡等を巡るスタンプラリーなど、様々な企画を実施しますので楽しみにしてください。



(列車イメージ)



(駅舎イメージ)

●「わかやま定住サポートセンター」がオープン！

・県では、わかやま暮らしを希望する人の「くらし・住まい・しごと」の相談をワンストップで受け、移住・定住を支援するための総合相談窓口「わかやま定住サポートセンター」を、11月1日に設置しました。

・このセンターは、カウンセリングを通して就労をサポートする「ジョブカフェわかやま」、新規学卒や既卒者に加えUIターン者の就職を支援する「ハローワークサロンほんまち」が同じ建物内にあり、移住希望者で仕事を探される方は、ワンストップで相談を受けることができます。

また、県が有する空き家の情報を提供する「定住支援住宅管理機構」とも連携しているため、住まいの相談も受けることが可能です。

・このように、県と国(労働局)が連携・協力して、ハローワークやジョブカフェと同じ建物内で移住希望者へのサポートをワンストップで行う取組は全国初です。

・さらに、センターを拠点とした移住・定住を促進するため、県と労働局における連携・協力を強化する協定も締結しました。この協定に基づき①管内のハローワークに移住担当窓口を新たに設置し、市町村のワンストップパーソンと連携した「しごと」に関する移住支援、②県内の雇用情勢、企業・求人情報の提供、③県が都市部で行う移住・定住促進のための活動、相談会等への労働局職員の派遣、などで連携していきます。



●紀州梅バーガーが2年連続日本一を獲得！！

・10月11日と12日の2日間、鳥取県大山町において、日本最大級のご当地バーガーイベント「とっとりバーガーフェスタ2015 全国ご当地バーガーグランプリ」が開催され、全国から選りすぐりの31団体が参加する中、株式会社カワ(広川町)の「紀州梅バーガー」が、見事2年連続で日本一に輝きました。さらに、特別賞としてデザイン賞も併せて受賞しました。



・1粒丸ごとのはちみつ南高梅のほか、紀州うめどりのチキンカツ、梅ピクルス入りのタルタルソースなど和歌山のおいしいがっばい詰まった味はもちろんのこと、地域で力を合わせて取り組んできた「紀州梅バーガー」への熱い思いを憐カワがアピールし、その姿勢も高く評価されました。



・雨天にもかかわらず、2日間で昨年の2倍以上の2,500食が好評のうちに完売となり、来場者による人気投票、10名の審査員による審査の結果、並みいる強豪チームを抑え堂々の1位を獲得しました。

・県では、食品メーカー等と連携し、健康づくりにも役立つ「和歌山の梅」を全世界に発信するため、ハンバーガーと「梅」をマッチングさせた「紀州梅バーガー」の開発に取り組み、昨年商品化にこぎつけました。

・現在、「紀州梅バーガー」は、憐カワ(県内、大阪府17店舗)、肉のまる彦本店(和歌山市)、株式会社サントピア(和歌山市3店舗)にて好評販売中です。皆さんも、日本一のご当地バーガーを是非御賞味ください。

●県内小学校へ「かき」を提供しました

・県では、地産地消の取組として平成24年度から県内小学校・特別支援学校の給食や家庭科等の教材として、「うめ」や「もも」などの主要農水産物の提供を行っています。



・この取組では、子どもの頃から県の名産である果物や魚などを食べる習慣をつけてもらい、大人になっても食べてもらうことを目的に、おいしくて新鮮な県産品を提供しています。

・今年度の第3弾として、県内すべての国公立小学校252校と特別支援学校5校に生産量日本一の「かき」を提供し、子どもたちが包丁を使った皮むきや調理実習等の体験を行いました。

・また、農家の方や県職員が以下の小学校に出向き、「かきの生産状況」等について説明する出前授業を行いました。

・今後、「みかん」、「魚」を使った出前授業も予定しています。

○出前授業実施校

実施日	実施校	実施日	実施校
10月19日	上富田町立岩田小学校	10月23日	湯浅町立田村小学校
10月21日	紀美野町立毛原小学校	10月27日	紀の川市立鞆渚小学校
10月22日	岩出市立山崎北小学校		みなべ町立岩代小学校
		橋本市立柱本小学校	10月30日

イベント情報(11月11日～12月10日)

期間	行事名	場所	問い合わせ先
11/14	紅葉祭	那智勝浦町・ 熊野那智大社～那智の滝	熊野那智大社 0735-55-0321
11/23	食祭 WAKAYAMA2015	和歌山市・ 和歌山城砂の丸広場	同イベント実行委員会 073-435-1234
11/23	万呂の獅子舞	田辺市・万呂須佐神社	田辺観光協会 0739-26-9929
11/23	岡の獅子舞	上富田町・八上神社	上富田町観光協会 0739-47-0550
11/28	第6回那智勝浦 いせえび祭り	那智勝浦町・ 勝浦漁協市場	那智勝浦町観光産業課 0735-52-0555
11/29	和歌浦ベイマラソン withジャズ	和歌山市・ 和歌山マリーナシティ	和歌山市スポーツ振興課 073-435-1364
12/1～ 2/29	白良浜イルミネーションイベント 「白砂のプロムナード」	白浜町・白良浜海水浴場	白浜観光協会 0739-43-5511
12/1	仙人風呂開湯式	田辺市・川湯温泉	熊野本宮観光協会 0735-42-0735
12/6	ねんねこ祭り	串本町・木葉神社	古座観光協会 0735-72-0645



熊野川支流の大塔川沿いに位置する川湯温泉は、河原の至る所で熱い湯が湧き出す全国でも珍しい温泉で、湯の峯温泉、渡瀬温泉とともに「熊野本宮温泉郷」と呼ばれています。その川湯温泉で毎年12月～2月末頃の期間限定でつくられるのが仙人風呂です。1,000人もの人が入れることからその名が付いたこの風呂は、大塔川をせき止めた野趣あふれる露天風呂で、青空・星空を見上げながら入る開放感が好評です。

自然・風物情報(11月中旬～12月上旬)

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
11月中旬	串柿づくり最盛期	かつらぎ町・四郷地区	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
11月中旬	白良浜冬支度 防砂ネット設置	白浜町・白良浜	白浜町観光課 0739-43-5511
11月中旬	ジャンボクリスマスツリー お目見え	和歌山市・ マリーナシティ	マリーナシティ 0570-064-358
11月中旬	有田みかん出荷始まる	有田市・JAありだ	JAありだ 0737-53-2311
11月下旬	紅葉見ごろ	和歌山市・紅葉溪庭園	和歌山城整備企画課 073-432-0001
		田辺市・奇絶峡	田辺観光協会 0739-26-9929
11月下旬	大銀杏色づく	田辺市・中辺路町	なかへち観光協会 0739-64-1470
11月下旬	子授け銀杏色づく	古座川町・三尾川	古座川町観光協会 0735-72-0645
12月上旬	海霧の発生	串本町・田原の海岸	串本町観光協会 0735-62-3171
12月上旬	センリョウの収穫	印南町・真妻地区	JA紀州 0739-22-2480
12月上旬	「するめーる」 年賀状バージョン	田辺市、白浜町等	和歌山南漁業協同組合 0739-55-2002



串本町の田原海岸では、12月上旬頃になると、底冷えのする早朝、海面近くの空気が冷やされて水蒸気が凝結し、海霧が立ちこめることがあります。
串本町田原の国道42号線沿いが絶好のビューポイントで、幻想的な風景を撮影しようと多くの写真愛好家が集まります。

～編集後記～

近畿地方では木枯らし1号が吹き、暦の上でも冬を迎えましたが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

さて、10月24日から26日まで開催されました第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま国体」も、大盛況のうちに終了しました。県選手団の皆さんは、地元の熱い応援を受け、過去最多のメダルを獲得するなど大活躍を見せてくれました。メダルの数では、東京に次ぐ2位でしたが、昨年から3倍以上にもなったことは大変素晴らしいことであると思います。

選手の皆さんには、この大会で経験したことを、今後の活動にも活かしていただくとともに、来年の大会、さらにはパラリンピックを目指すなど、ますます活躍していただきたいと思います。

また、両大会を通して、多くのボランティアの方が運営を支えてくださり、来県された選手や関係者、また観客の皆さんからもお誉めの言葉をいただき、本当に真心のこもった大会となったものと自負しています。

振り返ってみますと、何年も前から準備してきた両大会が、あっという間に終わってしまったような、少し寂しい思いをしています。私自身、期間中は公務で県内各地を回り、それぞれの地域で熱気を感じることができましたが、一方で、競技をゆっくり観戦する時間がなかったことが、少し残念でありました。

しかしながら、県民一丸となってこうした大きなイベントが成功に導くことができたことに自信がつかましたし、また大きな力を実感いたしました。今後は、この両大会で得た財産を礎に、「元気な和歌山」の実現に向けて、様々な施策の推進に力を注いで参りたいと考えています。引き続き、ふるさと和歌山の発展のため、御支援をお願いします。

日を追うごとに寒さが増してきます。風邪などもひきやすい時期であり、今年は新型ノロウイルスも流行の兆しが現れているようですので、夜は温かくするなど、くれぐれもお気をつけください。

知事室秘書課長 中村 一人

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんでいただけますので是非御覧ください。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせください。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供ください。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2015年(平成27年)11月 NO.91
和歌山県 秘書課
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1
TEL 073-441-2022